

新しい遠野物語をつくるプロジェクト F班

デジタル文化遺産

2年1組 菊池稀津己 2年2組 伊藤楓真 2年3組 堀内貴翔
2年4組 菊池海翔 1年2組 菊池百恵 1年2組 佐々木花愛

活動内容

- ・ 3Dスキャナーを使用する上で、身近なもののデータをとってみた。
- ・ ドローンを飛ばして遠野高校の校舎の周辺の撮影を行った。

ホログラムについて

ホログラム

レーザーを使って立体画像を記録したものでギリシャ語の「完全」という意味の「Holos」「情報」という意味の「Gram」を合成して作られた言葉。



VR,AR,MRの登場により、仮想の世界をよりリアルに視覚化したり、視界に広がる現実を重ねたりすることが可能になっています。

立体映像を楽しめるテクノロジー

3つの特徴

VR

Virtual Realityと示されていて、人工現実感や仮想現実と訳されているので、実際に赴くことのできない地球の裏側の人々の生活を視覚的にリアルに体験できるという事も、VRの魅力の一つ。

AR

Augmented Realityと示されていて、現実を仮想的に拡張する技術であると言われてVRと並べて紹介されることも多いが、ARには現実の世界と遮断された仮想空間を映し出すのではなくて実在の風景の上の情報を補足する事がARである。

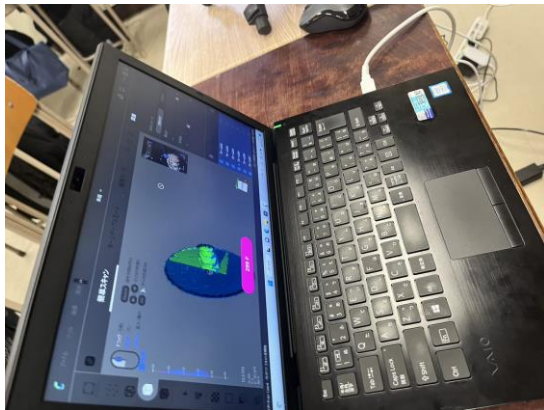
MR

Mixed Realityと示されていて、ARを組み合わせた技術とは異なってMRならセンサーの働きにより映像に操作を加えたりすることによって可能だったりします。複数のデバイスを使用して複数のユーザーが同じ体験を共有することが出来る。

3Dスキャナーを使用して行ったこと

3Dスキャナーとは対象物の測定や検査などの
様々な処理に幅広く活用できるもの。

3Dスキャナーを使い河童の置物のデータを取った。
ターンテーブルモードやハンドタイプなどいろいろなデータを取った。



結果

- ・ドローンを飛ばしてデータの撮影を行った。
- ・3Dスキャナーを使って身近なものや、キャラクターなど様々な物をターンテーブルを使って撮影できた。



振り返り

- ・ 活動の内容を理解して取り組むことができたのでこれからに繋がればいいなと思った。
- ・ 3Dスキャナーで物のデータを撮るのがとても難しく、苦戦したところも多くあったが、全員が積極的に活動できた。
- ・ ホログラムについて知る貴重な機会になった。
- ・ ドローンを操縦するのが難しかったが普段学ぶことのできない体験ができた。
- ・ 実際にホログラムにデータを起こすことは出来なかったが、諦めないことの大切さを活動を通して学ぶことが出来た。

来年度に向けて

- ・自分たちの目標が明確になっていなかったもので、段取りなどに準備がかかってしまい、やりたかったことが出来なかったもので、来年度は自分たちの目標を明確にして活動して欲しい。
- ・山口の水車小屋のデータをホログラムとして起こしてほしい。
- ・毎時間の貴重な時間を大切にして活動を行って欲しい。
- ・活動の中で出た課題を無駄にすることなく来年度の活動に繋げ、今年度よりもさらに質の高い活動を行ってほしい。

ご清聴ありがとうございました。